



「龍筆」菅野睦月 夏季写真コンテスト入選



第 47 号

令和 7 年 11 月 発行

発 行

岩手県立黒沢尻北
高等学校同窓会
〒024-0012 北上市常盤台
一丁目1-69
TEL 0197-63-2181
印刷 (株)同窓会事務局

題字は、元本校教諭
及川時次郎先生の揮
毫によるものである

今号の誌面

- ② / 近況報告 (学校長) 進路概況
- ③ / 令和 6 年度進路状況
- ④・⑤ / 2023年部活動の記録 (県大会優勝、全国大会出場報告)
- ⑥ / 東大励志プロジェクト 報告
- ⑦ / 開校記念講演会 黒陵会・新役員紹介 同窓会支部連絡先
- ⑧ / 会計報告 寄付のお知らせ 同窓会会員数 編集後記

新会長挨拶



現役生徒の誇りを育むために

黒陵同窓会 会長 高橋 敏彦 (46 回生)

今年、令和 7 年 5 月 1 日の黒陵同窓会総会において会長を仰せつかりました、

46 回生の高橋敏彦と申します。本年 1 月 12 日に急逝された、伊藤彬前会長の後任をお引き受けしての就任であり、先輩のご指導をいただきながらの会の運営は、残念ながら叶わないものとなってしまいました。創立 100 周年の一大事業を成し遂げた前会長には到底及びませんが、金濱校長先生と一から黒陵同窓会を創り上げていこうと心に誓っている次第です。以後、各地区の同窓会にも訪問させていただきまますので、どうぞよろしくお願ひします。

さて、近年の黒陵同窓会は、「H A B A T A K E I 黒陵」と「東大励志プロジェクト」の二大事業によって、現役生徒達の応援を続けております。「H A B A T A K E I 黒陵」では、北上市の姉妹都市・有効都市訪問に合わせて、参加する生徒への援助を行なっているほか、合格まで惜しいとこ

ろまで来ていると言われている東大チャレンジも悲願達成の日が近づいているものと思っております。先般は 30 名を超える生徒たちが東大卒の先輩達のディスプレイを直接聞く機会があり、眼光鋭く赤門突破に向けて闘志を燃やしている姿を拝見させていただきました。また、今年もラグビー部が大いに頑張り、岩手県大会の決勝まで駒を進めました。惜しくも僅差で盛岡工業高校に敗退してしまいました。同窓生の皆様には、今後とも、生徒の皆さんの頑張りをお支えしていただきたいと思います。

同窓会の体制は、副会長と監事がほぼ全員入れ替わって、だいぶ若返りました。伝統の黒陵魂を受け継ぎながら事業をさらに進化させ、現役生徒達の誇りを育むために、母校の魅力を高めるプロモーションを展開していこうと話し合っております。そのためにはより多くの同窓生の皆様のお力が必要です。引き続きご支援くださいますよう、よろしくお願ひ申し上げ、就任のご挨拶といたします。

●推移

Table showing enrollment trends from Heisei 27 to Reiwa 6, categorized by university type (National, Public, Private) and employment status (Public, Private, Total).

●合格状況(現役)

Large table detailing acceptance statistics for current students across various universities, including columns for university names, R4, R5, R6, and graduation rates.

令和6年度進路状況



2025年部活動の記録

運動部

*県大会優勝および全国大会出場に関する記録を掲載。

●陸上競技部

◇東北大会

三段跳	2位	渡辺 桜舞	(インターハイ出場)
400m	3位	藪崎 凌	(インターハイ出場)
5000mW	3位	木田 玄貴	(インターハイ出場)
棒高跳	2位	松田 伽音	(インターハイ出場)
砲丸投	4位	菅原 風菜	(インターハイ出場)

◇インターハイ

400m	決勝20位	藪崎 凌
5000mW	決勝27位	木田 玄貴
三段跳	予選19位	渡辺 桜舞
砲丸投	予選17位	菅原 風菜
棒高跳	記録なし	松田 伽音

●ソフトテニス部 (男子)

◇高総体県大会

男子個人	
第1位	八島 銀音・長根山桜太朗 (インターハイ・東北大会出場)
第2位	千田 琉碧・高橋 怜音 (インターハイ・東北大会出場)
第5位	新倉 健誠・柏崎 瑛仁 (インターハイ・東北大会出場)
男子団体	
準決勝	黒北 2-1 岩手
決勝	黒北 2-1 一関学院 (インターハイ・東北大会出場)

◇インターハイ

男子個人	
4回戦進出	八島 銀音・長根山桜太朗
3回戦進出	千田 琉碧・高橋 怜音
1回戦敗退	新倉 健誠・柏崎 瑛仁
男子団体	
1回戦	黒北 2-1 駒大高 (東京)
2回戦	黒北 0-3 尽誠学園 (香川)

◇岩手県ジュニア選抜ソフトテニス選手権大会

男子シングルス	
1位	八島 銀音 (全国大会出場)
男子ダブルス	
2位	佐藤 駿・山室 清廉 (全国大会出場)

◇国民スポーツ大会選手選考大会

男子シングルス	
1位	八島 銀音 (県代表に選出)

●ラグビー部

◇高総体県大会

準決勝	黒北 47-14	黒工
決勝	黒北 15-5	盛工

◇全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会岩手県予選

準決勝	黒北 43-0	黒工
決勝	黒北 29-7	盛工

◇東北大会

I部準優勝		
準決勝	黒北 35-7	青森山田
決勝	黒北 5-29	秋田工業

◇全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会

予選プール	
黒北 19-28	東海大静岡翔洋
黒北 21-43	早稲田佐賀
	ボウルトーナメント7位
黒北 26-12	倉吉東
黒北 21-28	高川学園
黒北 10-40	日本航空

●水泳部

◇東北大会

女子100m自由形	1位	小原 紫鈴 (インターハイ出場)
女子200m自由形	1位	小原 紫鈴 (インターハイ出場)

◇インターハイ

女子100m自由形	予選35位	小原 紫鈴
女子200m自由形	予選50位	小原 紫鈴

文化部

●放送部

◇高総体祭放送部門大会兼NHK杯全国高校放送コンテスト岩手県大会
 創作ラジオドラマ部門
 最優秀賞 千葉 安珠 (全国大会出場)

●演劇部

◇第48回岩手県高等学校総合文化祭演劇部門発表会
 第51回岩手県高等学校演劇発表会 最優秀賞 (東北大会出場)



私達ラグビー部は長野県上田市菅平高原で7月22日から25日の4日間行われた全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会に出場しました。

メンバー全員が高校では全国大会の舞台に立つのは初めてで、全国のレベルを知ることができた大会の一つのチームでもありません。県内では冬の間の鍛錬が実り、敵無しで終えた予選でしたが、迎えた予選プールの初戦、続く第二戦では全国大会の大きな壁を突きつけれませんでした。翌日の試合も一勝一敗となり下位リーグにまわったのラストゲームでも負けてしまい、最終結果はボウルトーナメント7位でした。

7人制ではあったもののこの結果の悔しさはチームに火を付ける大きなきっかけとなりました。10月に行われた全国高校ラグビー岩手県大会では第2位という悔しい結果でしたが、同窓会の皆様のご支援に心から感謝いたします。これからも黒北ラグビー部の応援をどうぞよろしく願います。

ラグビー部

福原 暖人

陸上競技部

藪崎 凌



私は、広島県で行われたインターハイに出場してきました。今回の経験を経て、普段の練習の大切さを身をもって知り、また、チャンスは誰にでも巡ってくるのだなと実感しました。私は大会前のランキングでは52/72位と、とても決勝で戦えるような順位ではありませんでした。しかし、今年は酷暑により、試合の形式が変更になり、予選が1日目、決勝が2日目という準決勝のない形になりました。しかも決勝は24人のタイムレースとなりました。このチャンスをものにするべく、普段の練習でしているいつも通りのアップをし、いつも通りの走りをして、そこにインターハイの熱が加わった結果、大幅なベストタイムの更新となり、決勝に進むことが出来ました(黒北記録、岩手県高校歴代2位相当)。前日の疲労もあり、決勝では思うようなレースはできなかったものの、最高の経験となりました。6年間の陸上競技生活を支えてくださった両親や顧問の先生方、OB会、父母会、チームメイト、応援してくださった全ての方々へ感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

水泳部

小原 紫鈴



私は8月17日から20日まで広島県で行われたインターハイに100mと200mの自由形に出場してきました。私にとって競技人生初めての全国という舞台に楽しみと緊張を抱きながら会場に向かったのを今でも覚えています。やはり、全国大会は雰囲気から県大会、東北大会とはレベルが違いました。前日練習からコーチと調子を上げる泳ぎを積極的にを行い、完璧な状態に仕上げることが出来ました。競技の結果は2種目とも納得のいくようにはなりませんでしたが、私にとっても良い経験となりました。後悔のない泳ぎをすることが出来たよかったです。また、東北大会から一緒に泳いできた仲間達とも全国大会という舞台に立つ事が出来て嬉しかったです。今回引率してくださった顧問の先生、コーチ、応援してくれた家族やチームメイトに感謝でいっぱいです。その方達に私の泳ぎで、恩返しが出来れば幸いです。私はこれから来年のインターハイ出場に向けて、さらに練習強化をしていきたいと思っています。また、これからも1つでも多く全国大会という舞台に立つ目標を忘れずに日々頑張っていこうと思います。

男子ソフトテニス部

佐藤 駿



私たち男子ソフトテニス部は、山口県で行われたインターハイで個人戦(3ペア)と団体戦に出場してきました。結果は、個人戦で新倉・柏崎ペア初戦敗退、千田・高橋ペア3回戦敗退、八島・長根山ペア4回戦敗退、団体戦では1回戦駒大高校に勝利し、2回戦で尽誠学園高校と対戦0-3で敗れました。今回のインターハイで自分たちと全国の実力の差を実感しました。岩手県では通用する攻撃も歯が立たずに相手の攻撃に圧倒されてしまいました。この悔しさを忘れずに全国レベルと戦えたことに誇りを持ち、今後の練習により一層懸命に取り組んでいきます。もう一度あの場に立ち全国で通用する選手になれるように、この経験を生かして新チーム一丸となつてより意識の高い練習を一日一日大切にしていきます。たくさんの方々がご支援に感謝を忘れず、応援ありがとうございました。

放送部

千葉 安珠

私は、7月21日から24日にかけて東京で行われた第72回NHK杯全国高校放送コンテストにてラジオドラマ部門に出場してまいりました。結果は準々決勝敗退でした。当日は準決勝出場への選考はずで行われており、結果を伏せられたうえで全国の作品を交流し合う準決勝会場では緊張感に包まれていました。全国の作品を聞いて感じたことは、圧倒的な実力差でした。この実力差はひとえに演者の皆様の素晴らしい演技を引き立てることができなかった私の実力不足からなるものでした。今回感じた悔しい気持ち、そして見えた全国の壁を先輩に伝え、会場で見聞きした全国の壁を活かしていつてもらいたいです。そしてこのような貴重な経験ができたのは、作品作りを支えてくれた部員の皆様、演者の皆様、周囲の皆様のおかげのおかげです。放送部はこれからもさらなる向上を目指し、活動していきます。本当にありがとうございました。



令和6年度東大励志プロジェクト2学年(20名)実施報告

1.【参加生徒の振り返り】

10/9 実施(オンライン) 国数英の勉強法

- ・単語の勉強法で、似た意味を持つ単語をグループで覚えることが効果的だった。

12/4 実施(オンライン) 目標の立て方・冬休みの過ごし方

- ・長期休みの計画の立て方へ何から始めればいいのか目安をつけることができるようになった。
- ・どのように学習を進めればよいか明確になった。
- ・「勉強しなきゃ」という気持ちになった。

1/29 実施(オンライン) 共通テストに挑戦

- ・自分たちが受ける試験のレベルを確かめると共に、今後の学習計画についても考えることができた。
- ・実際に国語の問題に取り組んでみて、「うわっ」となるような難易度の問題ではなく、よく見て考えればわかる問題が多く、少し自信になった。

2/20 実施(オンライン) 模試の活用法

- ・今までは模試後の復習をするだけでその後のことはあまり考えていなかったが、志望校判定から次の目標値を決めたり、強化するべきところを把握するなど様々な活用法を知り、実践するようになった。
- ・今まで模試の結果を漠然と見てしまっていたけれど、個票からの具体的な目標の立て方が分かった。

7/28 実施 パネルディスカッション：同窓生・三田先生との座談会

- ・黒北から東大へ行くというイメージがついて、東大を志望する大きなきっかけになった。
- ・パネルディスカッションで聞いた東大OBの方々のお話や、コーディネーターの方のお話が心に残った。
- ・コーディネーターの方に終了後質問しに行ったことを強く覚えている。一番モチベーションを上げるのに役に立った。

8/6～7 実施 東大見学会(2学年対象)

- ・東大のレベルや魅力を体感できた。
- ・OB工藤教授の研究室を訪問し、大学の学びを深く知ることができた。
- ・現役東大生の話や実際の研究室を見学し、勉強へのモチベーションが高まった。
- ・実際の研究室訪問で自分が大学生になった姿を想像できたり、本当に行きたい大学はどこか、どんな自分になりたいのか等、自分と向き合う良いきっかけになった。
- ・東大生やOBなど、様々な立場の方々に受験のコツなどを聞くことができた。
- ・大学生のリアルな生活を感じると共に自分の将来を深く考えることができた。



2.【東大励志プロジェクトに参加して：自分が成長した点・反省点】

- ・今後自分はどのように勉強すべきかわかり、具体的な目標を持って見通しを持った勉強が出来るようになった。
- ・勉強法などはカルペディエム・西岡さんの著書を読めばほぼ同じことが書かれている。その本・その関連する本・講

義などを含め自分に適した学習法探しにも大きく役立っただと感じる。自分や仲間が飛躍するための滑走路を延ばしてくれたこのプロジェクトに、とても感謝している。

- ・メンバー内で問題の解法を共有したり、志を明らかにして意識の高い仲間達と勉学に励めたことが本当に良かった。
- ・大学受験に対する考え方において大いなる刺激を受け、普段の生活では得られない濃密な講座を受けられた。
- ・プロジェクトに参加して、勉強に対して意欲的かつ積極的になった。自分を把握することができた。
- ・勉強に対してマイナスの感情を持っていたが、取り組む姿勢のあり方などを見直すことで自分と向き合うことができた。やるかやらないか、どのように取り組んでいくのかなど決めるのは自分であって、他人に委ねられるものではないし、自分次第でプラスに持っていけるので、プロジェクトで得た学びや気付きを糧に今後も前向きに走り続けていきたい。
- ・勉強しなきゃという気持ちを高めることはできたが、部活動の時間が削られる点やずっとパソコンを見る活動が多いという点で、私には向いていなかったと感じた。
- ・プロジェクトを通して一番良かったと思うのは、一緒に頑張れる仲間ができたということです。月1で集まるだけでなく、普段から勉強について話し合える仲間が出来たということはとても私にとっての宝になりました。これからの受験期と共に戦う仲間、出会えた人たちがとても心強いです。
- ・仲間と切磋琢磨して高め合うことがどういうことであるかを実感して、仲間の大切さを学んだ。
- ・自分の将来を考える大きなきっかけになった。しかし長時間の講義でわざわざ教えてもらうほどのことでもないと感じた内容も少しあった。
- ・東大励志プロジェクトで周りにはこんなにも志が高い仲間がいるんだと2年生のうちから感じられたのは自分にとって良い時間になりました。気持ちをアップさせることはできましたが、それに伴う実践をみんなと自主的にやれたらもっと良かったなと思いました。たとえば、難関大の過去問を実際に解いてみるなどです。今後の課題にします。

3.【後輩へのメッセージ】

- ・気持ちだけでなく、手と頭を動かして勉強するというのを仲間と早いうちからやっておくことをお勧めします。
- ・勉強法を学んでも頭が良くなる訳では無いし、実際にやるかどうかは自分自身にかかっているから、早いうちから勉強に力を入れるべき。後悔しても時間は戻らないので、本当に毎日を大切にしたい。
- ・大学受験に向けた心構えを持つ事ができた。未だスケジュール立てが苦手であり、講義を活かしきれていない部分があることは反省点だ。後輩には講義の復習を徹底することを勧める。

4.【3年次における講座内容のリクエスト】

- ・東大冠模試の活用法(夏冠模試 前後)、各教科の学習方法&参考書ルート(3年生版、できれば 現役合格した人のなど)



同窓会・ご支援をいただいた皆様への感謝を忘れず、これからも仲間とともに志を高く持って邁進します！

令和7年度 開校記念講演会

令和7年5月1日(木)

『地域と共に育む防災教育』
Ⅱ 釜石東中学校における東日本大震災の体験からⅡ

講師 前北上市教育長
平野 憲氏(48回生)



となり、総合的な学習の時間を利用して防災教育を実施し始めた。

平成22年度は釜石市教育委員会「防災教育」指定校として、小中合同避難訓練を行い、地域には生徒手作りの「安否札」を配付するなど、地域に働きかけながら防災教育を実践していた。その年度末、3月11日に東日本大震災が発生した。

平野氏本人も校舎内に生徒が残っていないことを点検した後で、自らはがけをよじ登って先に避難していた生徒達と合流することができた。

講演の中では当時、津波で被害を受けた地域の中にいた人だけが撮影出来た貴重な写真を見せて下さった。また、生徒が実際に避難した当時の様子を発表している映像も見せて下さった。『何度も訓練で小学生と一緒に走っていた避難ルートだったにも関わらず、訓練より足が重かった。いつもより遠く感じた。しかし訓練通りやっていたら大丈夫、と自分に言い聞かせていた。小学生と合流後は中学生として小学生を守らなければという思いで一緒に逃げた。最初に避難した場所の近くに住むおばあさんから、こんなに崖が崩れたのは初めてだから、もつと上に逃げた方が良くアドバイスを受け、その通りにしたおかげで皆の命が助かった。現実ではないような、映画のような光景だった。』被災後わずか5カ月の中学3年生の生の声であった。

大震災の経験から学んだこととして、まずは「命の大切さ」。一人の命が失われると、多くの人が悲しむ。大震災で1万5千人以上の方が亡くなったことを考えると、

どれだけ多くの人が悲しんだことか。そして「防災教育の大切さ」。基本がしっかりとしていればこそ、臨機応変な対応が可能になる。さらに「何事にも真剣に取り組む姿勢」。日頃の生活態度が行動に反映される。最後に「地域や人とのつながりの重要性」。いざという時に、互いに支え合うことができる。異常気象による自然災害が世界中で発生している。避難の三原則「想定にとらわれるな」「最善を尽くせ」「率先避難者たれ」を忘れず、自分の命は自分で守る行動をしていって欲しいとの平野氏の願いが全校生徒の胸に響いた講演だった。

黒陵会・新役員紹介

名誉会長 高橋 敏 (17回生)
顧問 八重樫浩文 (54回生)
(北上市長)

細井 洋行 (40回生)
(前西和賀町長)
内記 和彦 (52回生)
(西和賀町長)

会長 高橋 敏彦 (46回生)
副会長 及川 義明 (46回生)
八重樫博之 (49回生)

高橋 和幸 (57回生)
小原 昌江 (58回生)
小原 学 (60回生)
八重樫 敏 (62回生)
中村英理子 (66回生)
高橋 景子 (66回生)
高橋 克史 (59回生)
千田 誠志 (60回生)

会計監事

高橋 敏彦 (46回生)
及川 義明 (46回生)
八重樫博之 (49回生)
高橋 和幸 (57回生)
小原 昌江 (58回生)
小原 学 (60回生)
八重樫 敏 (62回生)
中村英理子 (66回生)
高橋 景子 (66回生)
高橋 克史 (59回生)
千田 誠志 (60回生)

支部連絡先 (変更等は事務局まで連絡願います。)

盛岡支部 (盛岡黒陵会会長)	高橋 耕 (39回生) 岩手県盛岡市愛宕町 12-15
東京支部 (在京黒陵会会長)	小原 寛 (43回生) 千葉県松戸市上本郷 3203
宮城支部 (宮城黒陵会会長)	佐々木哲郎 (40回生) 宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘 3-3-12
関西支部会長	佐々木 享 (36回生) 京都府京都市中京区西ノ京伯楽町 11
花巻支部 (花巻黒陵会会長)	高橋 久雄 (51回生) 岩手県花巻市尻平川 1-58
江刺支部 (事務局)	佐藤 等 (49回生) 岩手県奥州市江刺愛宕字東下川原 89

水沢支部会長	瀬川 巖 (20回生) 岩手県奥州市水沢南町 3-8
釜石支部 (事務局長)	遠藤 幸徳 (39回生) 岩手県釜石市唐丹町小白浜 156
西和賀支部長	佐々木 勉 (40回生) 岩手県和賀郡西和賀町湯本 30-80-8
相去支部長	佐藤 瑞夫 (35回生) 岩手県北上市相去町町浦 12-2
北上市役所分会会長	高橋 晋 (57回生) 岩手県北上市芳町 1-1 (市役所)
県庁黒陵会会長	加藤 勝章 (60回生) 岩手県盛岡市内丸 10-1 (県庁)

岩手県立黒沢尻北高等学校創立100周年記念事業協賛会会計報告

収入の部

項目	決算	摘要	単位:円
同窓会黒陵基金	14,000,000	黒陵基金から	
教育振興会黒陵基金積立等	9,826,500	R4~R6在籍生徒より年額5,000円ずつ	
寄付金等	37,973,508	募金	
記念誌売上(令和6年度分見込)	4,166,700		
雑収入	351,746	決算利息	
合計	66,318,454		

収支決算額 収入総額 66,318,454円-支出総額 66,318,454円=残額 0円
 令和7年3月27日 以上の通り報告します。
 事務局長 小田島淑人
 会計担当 菊池 崇

支出の部

項目	決算	摘要	単位:円
総務費	7,283,058	郵送代、会議等交通費、事務局人件費	
式典費	969,006	応援団校章旗作成費(インフレット、カラー封筒印刷費)	
祝賀会費	403,911	企画会社支払、祝賀会送迎バス等	
記念誌発行費	10,285,612	記念誌印刷費、記念誌刊行告知チラシ印刷費	
記念事業費	46,181,566	100周年基金への繰出し、駐車場整備費等	
記念行事費	1,056,381	みちのく芸能まつり花火打ち上げ及び撮影費 100周年記念イベント照明音響代等	
募金費	138,920	募金広告チラシデザイン料等	
雑費	0		
予備費	0		
合計	66,318,454		

令和6年度一般会計について

令和6年度黒陵基金会計報告書

●収入の部

項目	決算額	単位:円
前年より繰越金	5,818,200	
雑収入(決算利息)	1,466	
合計	5,819,666	

●収入の部

項目	決算額	単位:円
100周年会計への繰出し	4,000,000	

収入5,819,666円-支出4,000,000円=1,819,666円
 (次年度へ繰り越し)

令和6年度HABATAKE!黒陵 決算書

●収入の部

項目	令和6年決算	備考
繰越金	787,444	前年度より繰越
同窓生寄付金	624,000	個人寄付金
合計	1,411,444	

●支出の部

項目	令和6年決算	備考
旅行代金	0	
交流事業補助金	503,410	派遣生5人×100,000円 振込手数料
雑費	76,606	払戻金(印刷) 却入 印刷部(印刷費)
振込手数料	14,439	
合計	594,455	

令和6年度決算収支差額 816,989円は、令和7年度に繰越

監査報告

令和6年度同窓会一般会計収支決算書、令和6年度黒陵基金報告書、令和6年度HABATAKE!黒陵決算書及び令和6年度100周年基金報告書について、令和7年4月10日に監査した結果、帳簿並びに証憑書類が適切に処理されていることを認めます。

令和7年4月10日
 会計監事 及川 清喜
 高橋 克史
 千田 誠志

令和6年度一般会計収支決算・令和7年度収支予算

収入の部

項目	令和6年度決算	令和7年度予算	摘要	単位:円
前年度繰越金	116,124	245,748	令和6年度一般会計残金	
入会金	120,000	129,000	600円×215人の卒業予定者	
正会員会費	1,840,831	2,000,000		
準会員会費	1,300,000	1,278,000	200円×10ヶ月×639人の在校生	
寄付金	1,400,000	1,300,000	市役所分會等	
同窓会名簿収入	563,750	591,250	2,750円×215人の卒業予定者	
雑収入	28,082	6,002	決算利息等	
合計	5,368,787	5,550,000		

支出の部

項目	令和6年度決算	令和7年度予算	摘要	単位:円
総務費	3,953,646	3,870,000	事務費、通信費、会報発行費、同窓会名簿費、卒業記念品費	
会議費	16,500	105,000	総会費、役員会費、事務局費	
交際費	197,380	210,000	渉外費、慶弔費	
旅費	400,163	550,000	各種会議、支部総会等	
事業費	64,350	100,000	広告掲載、中学生体験入学配布物等	
助成費	491,000	600,000	東北・全国大会出場奨励費、奨励費	
黒陵基金	0	100,000		
予備費	0	15,000		
合計	5,123,039	5,550,000		

◆令和6年度決算収支差額 245,748円は、令和7年度に繰越

「東大励志プロジェクト」への寄付

振込口座/岩手銀行北上支店(普通)2238269 100周年基金 会長 高橋敏彦

「HABATAKE黒陵!」への寄付

払込口座/口座 02210-1-121272

加入者名 黒沢尻北高校HABATAKE!黒陵基金

同窓会会員数

卒業生	22,724名
現職員	60名
旧職員	879名
在校生	639名
合計	24,302名

令和7年4月1日現在(学校要覧による)

黒陵同窓会の情報を「note」で発信しています。ぜひご覧ください。



黒陵同窓会(公式) note

◆編集委員氏名(回生)
 高橋 和幸(57回生)
 小原 昌江(58回生)
 菊池 崇(72回生・学校)
 [協力] 高橋デザイン事務所 高橋幸男(41回生)

編集後記

〔おしらせ〕
 令和7年1月、前会長・伊藤彬さんが逝去されました。謹んで哀悼の意を表するとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。
 また、令和7年度より同窓会役員の変更が行われました。新役員の一覧は7ページに掲載しておりますので、ご確認ください。

◆昨年、岩手県立黒沢尻北高等学校は創立100周年を迎えました。今号の同窓会報では、現役生徒による部活動の記録を中心に掲載し、歴史を受け継ぎながら新たな一歩を踏み出す若者たちの姿を紹介しています。母校の今を知ることで、同窓生の皆さまにも懐かしさと誇りを感じていただけたのではないだろうか。原稿を寄せてくれた生徒、支えてくださった先生方、同窓会の皆さまに感謝しつつ、黒北は次の100年へ歩み続けます。